

## 学会誌改革のねらいと要点

2013年4月

学会誌担当副会長  
和文誌・英文誌編集委員会

### 学会誌改革のねらい

本学会機関誌である和文誌および英文誌には、厳選されたきわめて質の高い論文が掲載されておりますが、厳選のあまり投稿が敬遠されるのか、多くの会員諸兄が危機感を抱いて久しい投稿数の低迷状態が続いております。他方での論文集への投稿数増加や書評依頼の増加という事態が生じております。これは、学会として会員の研究資源の配分に大きな偏りが継続していること意味しております。こうした事態を改善すべく、これまでも学会として幾多の改革を行って参りました。しかし、残念ながらその意図に反して、これまでの幾多の改革も実をむすぶ状態に至りませんでした。

このままでは、本誌掲載の論文がないまま、書評のみの掲載号や欠号もあり得ることが、予想されます。海外への積極的な研究成果の発信が求められているにも関わらず、伝統ある農業経済学研究者の本学会機関誌が、活発な研究業績の公表の場として農業経済学の発展に貢献できない事態に陥りつつあるとの危機感を募らせております。

そこで和文・英文両編集委員会では、昨年度1年間をかけて、現状の課題を踏まえて具体的な改革の方向性について検討を行い、理事会および総会の議を経て、以下の改革を行うことといたしました。2013年度も引き続き学会誌改革を進めていきます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

### 学会誌改革の要点（1～4は2013年度、5～6は2014年度実施）＊詳細はHP参照ください

- 1) 審査項目を明確化・共通化し、審査に関わる情報の非対称性を出来る限り解消して、会員の投稿意欲の喚起を図るとともに、審査員、編集委員の負担軽減も図る。
  - 和文誌・英文誌共通の審査項目を設ける。論文集も同様の方向で検討する。
- 2) 英文誌の国際化と拡充を進める。
  - 投稿時ネイティブチェックの必須化、英文論文集投稿原稿の JJRE(英文誌への収録、AgEcon Serach への登録)
- 3) 審査プロセスの迅速化を図る。
  - 和文誌・英文誌の web 投稿の導入（原則 web 投稿とする）
- 4) 書評原稿に関する負担増大へ対処
  - 書評原稿枚数の圧縮(4000字から3000字)
- 5) 和文誌・英文誌と論文集の位置づけを明確にする。
  - 論文集の頁枚数制限変更（上限8頁から6頁）、投稿料金の改定（これらは、2014年度大会報告論文から適用）
- 6) 会員の論文作成のエンカレッジと査読者の望ましいあり方を探るための措置
  - 2014年度大会での特別セッション（仮称）の開催